

科学技術分野への予算は、将来的にプラスにつながる「投資」になるのではないかと。メディアなどで取

### 政権交代で公に

税理士 小林 俊範 78  
(大阪府吹田市)

民主党政権になってから、自民党政権時代の予算や財政の見直しが行われた。行政刷新会議の「事業仕分け」は目標額こそ下回ったが、高く評価したい。その過程で多くの独立行政法人などの存在を知り、

驚いた。幹部公務員OBらによる「天下り」と「渡り」、高額報酬や退職金についても明らかにした。

これらの機関は、彼らの天下り先などとして設立されたのではないかと疑いたくなる。政権交代がなかったら、こうした事実も公にならなかつたのではないかと。政権交代は絶対に必要なのだと。

### 議員の定数削減

無職 前川 寛治 81  
(大阪府交野市)

長引く不況で仕事がなくなったり、給料やボーナスが下がって月々の住宅ローンを払えなくなったりする人が続出していると聞く。国によって制度が異なり、比較は難しいが、米国の人口は約3億人で、下院

の定数は435、上院は100。一方、日本は人口約1億3000万人で、衆院480、参院242。日本が定数で187も多い。

国民が生活に苦勞している中、税金の無駄遣いは許されない。財政の緊縮化などを図るためにも、議員自らが定数や歳費の削減に乗り出し、少しでも予算の歳出を減らしていくべきだ。

## テーマ 考える 国の予算

来年度の予算編成が深刻な財源不足に直面している。税収額と国債発行額の逆転が見込まれ、苦しい台所事情が露呈した形だ。しかし、地方はもっと苦しい。財政がひっ迫し、至るところに疲弊感が漂う。加えて「事業仕分け」は、

〒530・8551 読売新聞大阪本 06・6366・1890 電子メール

### 時事川柳

前田 咲二 選

よみうり 遅れてばかりハト時計  
剛腕に振り回された宮内庁  
マニフェストの改訂版が出来ました  
ウツズより頭抱えるスポンサー  
年賀状ハローワークの友追加

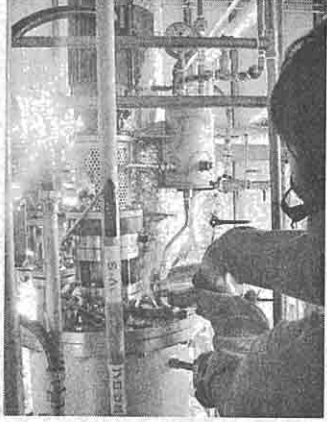
島根 片山 博文  
京都 原田 征男  
大阪 楠本 晃朗  
香川 中山 喜博  
岡山 永田 寿道

### OPINION WEST

低炭素社会をめざし、太陽光、風力と並ぶ自然エネルギーとして注目されるバイオマス。サトウキビの搾りかすを原料にしたバイオエタノールの生産から、E3燃料の製造車の走行まで、一貫した技術開発の実証試験が沖繩・宮古島で行われている。このプロジェクトに、大阪北部の彩都で起業したベンチャーが一役買っている。

販売する「りゅうせき」のプラロジエクト推進室が環境省の委託を受け、運営している。原料は、粗糖を搾り出す作業を3回繰り返し返した残滓の「廃糖蜜」。黒砂糖のように甘い香りが漂うが、どろりとした黒色の液体には強い苦みがある。島の土壌がカリウムなどの塩分を多量に含んでいるからだ。

奥島憲二さんは言う。推進室長の奥島憲二さんは言う。救世主のように現れたのは、品川日出夫・大阪大名誉教授が社長を務める「バイオアカデミア」(大阪府茨木市彩都あさぎ)だった。品川社長の妻で主任研究員の早苗さんが細胞融合という手法を用いたハイブリッド酵母は、高い能力を秘めていた。



酵母注入作業を再現してもらった。アルコールを燃やしながら殺菌しながら発酵槽に入れる

度まで冷やさなければならなかったが、「早苗酵母」は40度でも大丈夫。普通の水で冷やせる。冷却機は不要、つまり電気を節約できる。もう一つの特徴は、高い凝集性だ。通常、発酵の後には遠心分離器にかけ、アルコールと残滓をより分けるが、この酵母は自然に凝集して沈降するため、上澄みのアルコールをすくい取るだけで済む。これも省エネにつながる。

山は、米だけは山にはない。だから里の山とは、山を削って田を作ってきた。山は削りかきまで食った。その神様の縄張りを削って、田圃に変えてきたんだ。だから、お札をせにゃならん。おおよそ十年に一度くらいの割合で、この里には、平年の倍くらいの収穫がある年が巡ってくる。その途方もない豊作が、「返し作」の時期となる。

# 風の座標



論説委員 本多 宏

## 「地産地消」では惜しい

た宮古島の廃糖蜜は「世界一発酵しにくい」と、推進室長の奥島憲二さんは言う。救世主のように現れたのは、品川日出夫・大阪大名誉教授が社長を務める「バイオアカデミア」(大阪府茨木市彩都あさぎ)だった。品川社長の妻で主任研究員の早苗さんが細胞融合という手法を用いたハイブリッド酵母は、高い能力を秘めていた。

山を、大ざっぱに指さしてみせた。だから「返し作」なのだ。「けども、さすがに田圃をみんな休ませちゃ、わっしら、一粒の米も食えなくなるからな。どの田を休ませるか、みんなが集まって、籤引きをするんだ」

